

令和3年度学校自己評価

番号	項目	評価	
1-1	学校は、ホームページで情報を十分に公表できていますか	2.88	B
1-2	学校は、各種通信をとおして、十分な情報を提供していますか	2.98	B
1-3	学校は、各科に応じた特色ある教育を実施していますか	2.98	B
1-4	学校は、地域と連携した教育活動をしていますか	2.90	B
1-5	学校は、生徒の学力を伸ばす指導をしていますか	2.50	B
1-6	学校は、生徒の意欲を引き出す指導をしていますか	2.68	B
1-7	学校は、生徒理解に基づいた指導をしていますか	2.68	B
1-8	学校は、規律正しい生活を送る指導をしていますか	2.98	B
1-9	学校は、部活動が積極的に行われていますか	2.08	C
1-10	学校は、的確な進路指導をしていますか	3.00	B
1-11	学校では、校舎内外の美化が図られていますか	3.08	B
1-12	学校では、危機管理に対応した防災・防犯教育が行われていますか	2.70	B
2-1	職員は、服装や頭髪への指導ができていますか	3.10	B
2-2	職員は、あいさつ指導ができていますか	2.98	B
2-3	職員は、学習指導ができていますか	2.63	B
2-4	職員は、部活動指導ができていますか	2.30	C
2-5	職員は、学校が地域活動に取り組む指導ができていますか	2.40	C
2-6	職員は、通学マナーや交通ルールの指導ができていますか	2.70	B
2-7	職員は、生徒のボランティア活動参加への指導ができていますか	2.20	C
2-8	職員は、生徒がいじめやトラブルのない学校生活を送るための指導ができていますか	2.55	B
2-9	職員は、生徒が進路目標やその実現に向けての計画性を持てる指導ができていますか	2.70	B

A:3.3以上 B:2.5~3.3 C:2~2.5 D:2以下

令和3年度学校経営の重点等

1 学校経営の重点

(1) 教育目標

- ア 校訓「開拓者精神」に基づき、自分の夢や志の実現のために、不断の挑戦や努力を尊重する人材を育成する。
- イ キャリア教育や産業教育を通じて専門性を高めるとともに、社会的自立を図り、地域社会を支え、貢献できる人材を育成する。
- ウ 知・徳・体の総合的な向上を図り、コミュニケーション能力を高め、自ら考え、適切に判断し、主体的に行動することにより、地域の未来を切り開いていく人材を育成する。

(2) 目指す生徒像

地域を支え未来を拓く生徒

(3) 身につけさせる力

- ア 基礎・基本の力
- イ 自分で考える力
- ウ 自ら行動する力

(4) 本年度重点実施項目

ア 基礎学力の定着と主体的・対話的、協働的学習の積極的な導入

生涯を生きていくために重要な基礎的・基本的学力や技能を定着させるとともに主体的・対話的、協働的学習を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力・課題解決力等未来型の学力を養う。

イ 専門性の向上と社会的自立に向けたキャリア教育の充実

社会の変化や産業の高度化等に対応するために、それぞれの科においてICT化やスマート化など専門性を高める取り組みを行うとともに、キャリア教育の充実と体系化を図り、将来の生き方働き方や社会とのつながりを考え、生徒の社会的自立に向けたキャリア形成を支援する。

ウ 自尊意識とふるさと意識の醸成

本校の教育課程で実施される「体験活動」や「命の教育」をはじめ、地域との関わりを通じた体験活動やボランティア活動等の取組により、生徒の自尊心や他者尊重の精神並びにふるさと意識の醸成を図る。

エ 人権意識の向上と主権者教育の実施

あらゆる教育活動を通じて生徒の人権意識を高めて自分と違う考えを尊重し、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、公共の精神や政治的教養を育む教育を推進する。

オ 地域及び関係機関との連携の強化

地元の関係機関や大学等と連携した教育活動を一層推進させ、地域になくてはならない学校として、地域の将来を開く高い専門性をもった人材の育成を積極的に行う。

カ 特別支援教育、共同と交流学习の充実

交流及び共同学習の実施校として、高校生心のサポート推進事業との連携を密接にし、特別支援教育体制を一層推進させ、インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに個に応じた指導の充実を図る。

キ 職員の協働体制の確立

教育目標遂行のため、教育活動における共通理解を図り、部・科・学年の連携を通じて、学校の組織力を生かした協働体制を確立する。また、校務の効率化により勤務の適正化を図り、生徒との向き合う時間の確保とともに、教職員の心身の健康維持を図る。

ク 教職員の資質・能力の向上

教職員の資質・能力の向上が求められている中、研究授業や幅広い分野での研修を積極的に行い、教職員の専門性や実践力の向上を図る。

ケ 本校の魅力の発信

あらゆる機会を通じて、本校の魅力を中学生、地域、行政及び関係機関に発信し、開かれた学びがいのある学校づくりをさらに進める。

コ 本校の将来像の検討

地域の現状や高齢化する社会の変化や専門高校の在り方等を踏まえ、今後の本校の将来像について検討する。

2 教科指導及び生徒指導（特別教育活動を含む）の重点

(1) 教科指導の重点

ア 基本方針

(ア) 基礎的・基本的な学力の定着を図り、社会の変化に主体的に対応できる資質を育成する。

(イ) 教科担当者・学年・学科・部の連携を図り、一人一人の個性・能力・適性に応じた教育の充実と自己教育力の育成を図る。

イ 重点目標

(ア) 習熟度別授業やTT授業、少人数指導など生徒個々の能力に応じた学習を推進し、「わかる授業」の実施に取り組む。

(イ) 体験的な学習をとおして、自ら探究する能力を育み、学ぶ喜びを感得させる。

(ウ) 生徒及び地域の実態をふまえて、基礎科目の充実を図り、各学科の教育目標の達成に努める。

(エ) 授業改善を推進する。

① 各教科・科目について教材を精選し、到達目標を明確にする。

② 教育機器等の活用を図るなど指導法を工夫し、学力の定着を図る。

③ 公開授業週間や授業アンケートを実施し教科指導力の向上を図る。

(オ) 各科の目標

① 生産ビジネス科

農業生産技術の習得を軸にしながら、販売戦略や起業スキルを身につけた地域産業を担う人材を育成する。

② 食品ビジネス科

食品加工、食品製造、品質管理の技術を軸に、栽培、販売の基礎を学習し、6次産業に対応した人材を育成する。

③ 生活ビジネス科

「地域に学び、学びを地域に」を目標とし、農業・福祉・食育を体験的に学習し地域を創造する人材を育成する。

(2) 生徒指導の重点

ア 基本方針

夢の実現に向けて自立心や自律心を養い、基本的な生活習慣を身につけ、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導するとともに、自信と誇りを持ち、社会のために貢献できる人材を育成する。

イ 重点目標

(ア) 生徒一人一人を大切にし、生徒の的確な把握と内面的な理解に努める。

① 心のサポートシステムの実践・研究

関係機関やキャンパスカウンセラーと連携し、多元的、総合的に生徒を理解し、いじめの未然防止と解消に努める。

- ② 面談や教科指導・特別教育活動など生徒との人間的なふれあいをとおして、一層の生徒理解に努める。
- ③ 問題行動に対して、計画的・継続的な指導を行う。また、予防的な生徒指導に努める。
- (イ) 自己を見つめ、向上させようとする「自立」・「自律」の心を育成する。
 - ① HR指導や学校行事をとおして自己の生き方、在り方を考え、実践できるように指導する。
 - ② 外部講師による講演など多様な機会を設け、集団の一員として、また個人としての望ましい生き方を考えさせる。
- (ウ) 人、物、時間を大切にす態度を育て、意欲をもって高校生活を送ることができるよう指導する。
 - ① 自他の生命と人権を大切にす心を育てるとともに、安全教育を推進する。
 - ② 基本的な生活習慣（挨拶・時間厳守・清掃）を確立させるとともに、公共物を大切にす心を育てる指導を推進する。
 - ③ 特別活動や学校行事に積極的に取り組み、活力ある高校生活を目指すとともに、自己の再発見や鍛錬の場となるよう指導する。
- (エ) 家庭や地域との連携を密にし、教職員の共通理解を図り指導の徹底を図る。
 - ① 学校からの配布物や保護者会などを通じて、本校の指導方針等についての理解や協力を求める。
 - ② 全教職員の共通理解を図り、協力体制を確立するために情報交換、共有の推進に努める。
 - ③ 地域行事への積極的な参加を推進する（ボランティア活動等）

3 健康管理に関する指導の重点

(1) 基本方針

学校安全教育の推進、教育相談の充実、健康教育・健康相談の充実、学校の環境衛生の維持に努め、心身共に健康な学校生活の確立を図る。

(2) 重点目標

ア 学校環境の整備と美化

環境整備の取り組みを活発化し、安心して学べる環境づくりに努める。

イ 健康管理の徹底

定期健康診断の結果及び日々の健康観察をとおして、心身の健康状態の把握に努めるとともに、家庭や関係機関との連携を密にしながら指導に万全を期す。

ウ 健康教育・健康相談の充実

日々の相談活動・啓発活動により、生徒に自身の健康に関心を持たせ、自己管理能力の育成を図る。

エ 安全教育の推進

体育授業、実験・実習、通学等でルールを守り、自他の安全を確保する能力やマナーを身につけさせ、あわせて非常災害時に対する心の備えを身につけさせる。

オ 事故発生時における対応について、職員の共通理解を深め、的確かつ迅速な対応が図れるよう努める。

カ 非常災害時における救急法や避難行動について日頃から訓練を行い、生徒・職員の自覚を高め、万全の備えを期す。

キ 地域の関係諸機関・諸団体との連携を密にし、学校保健委員会を活発にして学校保健および学校安全の向上を図る。

ク 教育相談体制の充実に努める。

4 令和3年度研究テーマ

- (1) 学校設定教科「丹波学」の組織的運営
- (2) 個々の進路目標に対応した選択科目の厳選
- (3) 事業所および丹波市内農家でのインターンシップと進路HRの充実
- (4) 自信と誇りを育みながら、生徒の意欲を引き出す指導の実践
- (5) 視力や歯科の要受診者に対する健康相談の充実による受診率の向上
- (6) 農業の学びと商業の学びを融合させた、地域との新たな連携を構築
- (7) 特別支援教育及び人権教育の一層の充実
- (8) 各科においてICT化やスマート化を推進し専門性の向上を図る
- (9) 長野県農業実習の実施に向けた受け入れ先との連携

5 高校生ふるさと貢献活動事業で実施する内容

- (1) 花いっぱい運動
本校周辺道路等に、草花実習で育てた花を植栽する。地域住民からも喜ばれる活動をととして、地域に対する愛着の心を育て、社会性を育てる。
- (2) 交流の推進
 - ア 生徒が主体となり地元の児童生徒に栽培・飼育・加工・食育等の学習を指導する。
専門教科で学んだことを生かし、自分や学校に対する誇りを持ち、学習活動に対する興味・関心・意欲の増進を目指す。
 - イ 老人ホーム、特別支援学校、認定こども園等との交流を行う。計画的に双方向の交流を実施することで、人から喜ばれることのうれしさや自己有用感等を体験させることで豊かな人間性の育成を目指す。
- (3) 校外販売での地域活性化
本校の生産物等を地域イベントに合わせ販売を行う。また、授業の一環として近隣の商業施設などで販売実習を行う。さらに、交流をととして地域の一員としての自覚と貢献する意識を高める。
- (4) 地域リーダーの育成
学校設定教科「丹波学」に設定する学校設定科目「地域未来」「起業経営」の学習をととして丹波を知り、ふるさと丹波に誇りを持たせ、地域のリーダーとなる生徒を育てる。

6 インターンシップ等で実施する内容

- (1) 事業所および丹波市内農家でのインターンシップ（全学科）
- (2) 地元起業家やキャリアアドバイザー等を招聘した進路講演会の実施（全学科）

7 高校生キャリアノートの活用に関する内容

- (1) キャリアノートやキャリア教育指導資料等を活用し、職業人としての規範意識や倫理観を醸成し、豊かな人間性の涵養を図る。
- (2) インターンシップをととして、社会人としてのマナーや様々な場面における対応を実際に体験させることで、「働く」ことの意味を考えるとともに、地域を知り、地域の将来を担う人材の育成を図る。

8 インスパイア・ハイスクール事業で実施する内容

技能・技術教育研究

地元特産品や新たな特産品の栽培・加工・流通に積極的に取り組み、地域貢献及び活性化の一端を担う地域密着型の農業高校を目指すとともに、未来の丹波市を支える人材を育成する。

令和3年度 各部の重点目標及び成果と課題

1 総務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・校訓「開拓者精神」に基づき、不断の挑戦や努力を尊重でき、地域社会を支え、貢献できる人材、地域の未来を切り開いていく人材を育成するという学校目標を実現するための基礎となる環境づくりを推進する。
自尊意識	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと貢献活動において専門学習の成果を生かした活動をおこない、地域の一員としての自覚ならびに、地域社会の活性化に貢献する力を身につける。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・環境美化を推進し、良好な学習環境づくりを推進するため、職員と生徒が清掃しやすい環境を整え、校内美化の徹底を図る。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ後援会、PTAなどの関連団体との協力・協働関係を深化させる。 ・学校説明会、オープンハイスクールの運営を工夫する。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・各部学年と連携した学校運営をし、各行事においても職員全体が動きやすい体制を整える。 ・会議資料のペーパーレス化を推進する。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育の推進と職員の防災意識の向上のため、防災訓練を年2回実施、併せて防災教育の工夫を図る。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・HPの充実を図る。 ・学校だよりの定期的な発行や、行事ごとのHPやブログを更新する。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で活動が制限される中において、実施内容を工夫し感染拡大防止を徹底しながらふるさと貢献活動に取り組んだ。 ・HPやブログの更新や氷上校だよりや動画をとおして、生徒の活躍や取組・成果、学校ピーアールなど情報発信を積極的に実施できた。 ・体育祭・桃陵祭・芸術鑑賞等の行事後の整美委員による清掃点検を実施することで、生徒及び職員の清掃意識の向上を目指すとともに、校内美化に励んだ。 ・防災避難訓練を夏・冬の2回実施。本年度は新しい視点から自衛隊による防災講演を実施した。また講演後の生徒アンケートを1・17追悼行事の資料として生徒に提示することで防災意識の継続を図った。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動経済学を取り入れた活動やSDGsの取り組みを実践する。 ・生徒、職員の防災意識の向上や防災教育の効果的な内容をさらに工夫する。 ・HPやブログ、氷上高だより等、情報発信の内容をさらに工夫・充実させる。

2 教務部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着と主体的・共同的学習の積極的な導入を図り、生徒の適性・能力・進路に応じた教育を目指す。 ・「丹波学」を柱としてカリキュラムを運営する。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を活用して、学習習慣の確立と義務教育段階の学習内容の定着を図る。 ・アクティブラーニング型授業を効果的に取り入れ、生徒が主体的で対話的な学習をし、学ぶ意欲を高める。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間中に必ず授業見学に行く。(最低2回) ・農業クラブの大会の大会で実績を出す。 ・専門性の向上に繋がる資格取得を推進する。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて、ふるさとを学び、郷土愛と自尊心を高める。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」を通じて地域との連携を強める。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会を実施し、生徒について情報を共有し、必要に応じて合理的配慮を行う。 ・生徒会などと連携して氷上特別支援学校との交流や共同学習を推進する。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に委員会や研修会を開催し、情報の共有を図る。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・公開授業への参加、研究授業の実施を促す。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・「丹波学」の取り組みをHPに掲載したり、記者発表を行い、取材を依頼する。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・商業科目の学習を通じて経営感覚を持った農業人を育てる。 ・「地域未来」→「起業経営」→「課題研究」の学習の流れにより、地域を支え未来を拓く生徒を育てる。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝学で、学習習慣の確立ができた。 ・年3回の公開授業週間を実施し、教員の資質が上がった。 ・「丹波学」を通じて地域との連帯をはかり、新商品開発や丹波市の魅力を知ることができた <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業週間の充実による授業力の向上 ・定期的な学力向上研修会の開催

3 生徒指導部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・夢の実現に向けて自立心や自律心を養い、基本的な生活習慣を身につけ、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導するとともに、自信と誇りを持ち、社会のために貢献できる人材を育成する ・学校安全教育の推進、教育相談の充実、健康教育・健康相談の充実、学校の環境衛生の維持に努め、心身共に健康な学校生活の確立を図る。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人を大切にし、生徒的的確な把握と内面的な理解に努める。 ・心のサポートシステムの実践・研究を推進する。 ・関係機関やキャンパスカウンセラーと連携し、多元的、総合的に生徒を理解し、いじめの未然防止と解消に努める。 ・面談や教科指導・特別教育活動など生徒との人間的なふれあいをおして、一層の生徒理解に努める。 ・問題行動に対して、計画的・継続的な指導を行う。予防的生徒指導法の確立。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・人、物、時間を大切にする態度を育て、意欲をもち生活が出来るように指導。 ・自他の生命と人権を大切にする心を育てるとともに、安全教育を推進する。 ・基本的な生活習慣（挨拶・時間厳守・清掃）を確立させるとともに、公共物を大切にする心を育てる指導を推進する。 ・特別活動や学校行事に積極的に取り組み、活力ある高校生活を目指すとともに、自己の再発見や鍛錬の場となるよう指導する。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域との連携を密にし、教職員の共通理解を図り指導の徹底を図る。 ・配布物や保護者会で、本校の指導方針等についての理解や協力を求める。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒について、職員の共通理解により指導を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員の共通理解を図り、職員での情報交換、共有の推進に努める。 ・地域行事への積極的な参加を推進する
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・「受容・共感」的に受けとめることと、「指導・要求」することを通じて、生徒の生き方・在り方に積極的に関わる。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会で、すすんで「挨拶」を行うことのできる環境をつくる。 ・登下校時の帰属意識や誇りを養い、地域から信頼・期待される生徒を育てる。 ・部活動、生徒会活動等の教育活動を積極的にアピールし、地域の認知度を高め、学校全体のイメージと信頼の向上に努める。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活実態調査の数値で人の立場を考えて行動している、友人と好ましい人間関係を築けていると答えた生徒が8割以上になった。 ・挨拶ができてると9割の生徒が感じるようになった。 ・地域清掃など積極的に学校のイメージと信頼向上に努めることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォンの使用時間が長く、歩きスマホなど危険な使用をする生徒がいるため、スマホのモラル教育をより充実させる。 ・ボランティアや地域の行事への参加を促し、自己肯定感を育む。

4 進路指導部

基本方針	・生徒一人ひとりが主体的に自らの在り方・生き方を考え、能力・適性に合った進路選択と自己実現ができるように、学校教育活動の各段階を通じて効果的な進路指導の取り組みを行う。
基礎学力	・全職員と協力して、教科指導はもちろんのこと学校行事、進路行事などを通じて進路意識を高める。また、教務、学年と協力し、基礎学力の向上に努める。
専門性	・計画的かつ効果的な進路LHRを実施する。 ・インターンシップの指導を充実させ、社会的自立を促す。
自尊感情	・就職希望者のうち8割強の生徒が地元就職を希望することから、進路行事を通して地元企業について学ぶ機会を充実させる。
人権意識	・キャリアノートを活用し、勤労の義務と権利を学習する進路LHRを実施する。
地域	・丹波市や地元企業と連携し、2年次でインターンシップ、3年次では就職フェアや応募前職場見学を実施し、地元企業を理解した就職指導を行う。
特別支援	・支援が必要な生徒の進路について、関係機関と連携して指導を行う。
職員の協働	・特に各学年と連携を図り、生徒の進路意識を高め、進路実現を図る。また、教務部と連携し、基礎学力の向上を図る。
資質能力	・研修会や大学等の学校説明会に積極的に参加し、情報を共有する。
本校の魅力	・HPを通して、進路指導の様子をタイムリーに発信する。
将来像	・地域に根差した専門高校として、将来地域で活躍できる人材を育て、地域と共に歩む学校を目指す。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年・部・科と連携し、インターンシップ等進路行事の指導の充実を図れた。 ・キャリアノートの内容を参考にし、学校独自の進路指導ができた。 ・ブログを通して進路指導の様子や成果を発信できた。 ・支援が必要な生徒の進路について指導ができた。 ・地域に根差した専門高校として地域で活躍できる人材を輩出できた。 <p>(進学47.4%、就職52.6% 就職のうち地元就職88%)</p> <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職、進学を受験先を決めるにあたってミスマッチを減らす取組が必要。 ・進路LHRの実施時間が減少する中で、キャリア教育を充実すること。 ・基礎学力向上におけた取り組みによる、さらなる指導が必要。 ・進路決定後の学校生活についての指導が必要。 ・研修会や説明会等の減少により、進路指導に関する情報収集の工夫が必要。

5 実習総務部

基本方針	・特色ある様々な体験活動をとおして、開拓者精神の高揚を図り、地域および社会で活躍できる人材を育成する。
基礎学力	・学習の中で基礎的・基本的学力や技能を定着させるとともに主体的な学習などを積極的に導入し、課題解決力などの学力を養う。
専門性	・社会変化や産業の高度化等に対応するため、ICT化など専門性を高める取り組みを行うとともに、生徒の社会的自立に向けた専門的な学びを高める。
実習総務部 自尊感情	・専門学科における「体験的な学習」や「実物を用いた教育」によって生徒の自尊心や他者尊重の醸成を図る。さらに、地元丹波市への関わりの中で、ふるさとへの学びを深め、意識の醸成を図る。
人権意識	・各種の実習や学習活動の中で、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、人権意識を高める。
地域	・インターンシップや課題研究、就農講座等で地域との連絡を密にとるとともに、地元の関係機関や企業と連携した教育活動を推進する。
特別支援	・インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに、配慮が必要な生徒などに応じた指導の充実を図る。
職員の協働	・教育活動における部内の共通理解を図り、協働体制を確立する。また、部員の心身の健康維持を図る。
資質能力	・研究授業や幅広い分野での研修を積極的に行い、部員の専門性や実践力の向上を図る。
本校の魅力	・農場での日々の出来事や専門高校の特色ある学習活動などを発信し、開かれた学校づくりをさらに進める。
将来像	・産業教育を通じて生徒の専門性を高めるとともに、地域社会を支え貢献できる人材を育成する。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耕種部門では新たな水気耕温室が整備され、最新の栽培方法を学びができるようになった。(今年度末にはさらに整備予) ・農業クラブ全国大会(兵庫県大会)のプロジェクト部門を担当することで、職員や生徒の活躍の充実ぶりを感じることができた一年であった。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会や就業講座などで校内の学習の成果を外部に発信する予定であったが、新型コロナにより実施することができなかった。 ・施設や設備の更新が進んでいるが、まだまだ古い設備も少なからず存在する。農業の高度化やICT化に対応できる設備やカリキュラム編成を進める。

6 保健部

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが、健康の保持・増進に努め、心身共に健康で安全な学校生活を送れるよう実践的な能力と態度を育てる。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果に基づき、生徒の自己管理能力を育成する。 ・生徒を取り巻く健康課題「飲酒・喫煙・薬物乱用・感染症・性教育・自殺予防等」について情報提供と、学習の機会を持つ。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉事務所や市教委のSSW等と情報交換を行い、健康課題や学校保健に関する課題等について取組を続ける。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について、コーディネーターと共に担任、学年、保護者とのこまめな情報交換を実施し、個に必要な支援を行えるよう協力する。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の学校事故等の対応について、意識の向上も含め、継続して取り組む。 ・メンタル面の不調を訴える生徒については、個々の状況によって居場所の提供ができるよう保健室の環境整備を行い、スムーズに相談活動には入れるよう努める。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・HPに「保健室」のページを作り、「保健だより」の発信、カウンセリングの日程、保健行事などのお知らせをHP上で行いたい。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「専門性」…健康課題の「薬物乱用・感染症・性教育」の部分においては、保健だよりや講演会（予定含む）等で生徒へ情報提供ができた。 ・「特別支援」…支援の必要な生徒に対しての情報交換や支援の協力は継続してできている。 ・「資質能力」…メンタル面の不調を訴える生徒とのかかわりや居場所提供、スムーズな相談活動については今まで通りできている。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「専門性」…生徒の自己管理能力の育成については、機会や方法を得にくく、新しい取組への工夫が課題。 ・「資質能力」…学校事故や防災等への対応について、マンネリ化とならない取組が必要。 ・「魅力」…保健だよりやカウンセリング等によるさらなる情報発信。

7 第1学年

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生としての自覚を持ち、学校生活を通じて社会性を身につけさせる。 ・生徒の能力や適性に応じた目標を意識させ、意欲的に高校生活を送らせる。 ・氷上高生としてのプライドを持ち、自ら進路を切り開いていけるように支援する。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の時間をきっかけとし、一日の学習に向かう態勢づくりを行う。 ・保護者や卒業校への手紙など学期に一回以上、手帳への一週間の振り返り記入を毎週、文章を書く場面を設定する。 ・中学校訪問活動など学年全体での活動を設定し、協働的学習を積極的に導入する。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・所属する学科で学ぶことと進路への活用をLHR等で意識させる。 ・進路指導部と連携した活動により、進路実現に向けた意識を身につけさせる。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を充実したものにし、成功体験を積み重ねて自尊感情を高めさせる。学年集会や学年通信などで活躍の場を設け、意識の醸成を図る。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。 ・学年行事においてクラスを超えたグループ活動を行い、協働する姿勢を身につけさせる。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会活動への参加や中学校訪問など、地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導研修会、個別支援計画、中高連携シート等を活用し、支援を要する生徒について、学年全体での支援体制を確立する。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任、学年付きによる学年懇談の実施、学年団教員によるSHRの交代実施など、学年全体での連携、情報共有により、協働支援体制を確立する。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・他クラスへのSHR参加により、自身のクラス運営を見直す機会とし、自身の指導に取り入れられる体制を作る。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信発行の定例化（月1回）を図り、情報発信に努める。また、一方通行にならないよう、生徒の学年通信への参加機会を設ける。 ・中学校訪問の実施により、本校の魅力を生徒からの直接の言葉で中学校に伝えられるようにする。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手帳や手紙の作成、中学校訪問などの機会を定期的に設定することができた。 ・学年通信に生徒のイラストを掲載するなど、活躍の場を設けることができた。 ・行事や授業において、クラス横断的なグループでの活動を行うことができた。 ・担任による他クラスでのSHR実施、委員会生徒への学年面接の実施ができた。 ・中学校訪問など生徒による情報発信の機会を設けることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙の添削指導などの指導の工夫。 ・学年集会における生徒の活躍場面の設定と実施目的、実施の必要性の検討。 ・多様な生徒意見の収集。 ・副担任のクラスへの参加機会の増加と連携。 ・進路指導部など他の分掌との連携（行事やLHRとの関連など）。

8 第2学年

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・何事も自ら考え行動し、新しい道を切り開いて歩いていこうという校訓を念頭におき、学年目標を「信頼・挑戦・謙虚」と定め、高校生活を通して自らが成長できるようにする。2学年では、校外活動を通して、積極的に挑戦できる機会とする。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の進路について考える機会を多く持つことで、進路意識を高め、必要な各種の資格取得に挑戦させる。 ・授業はもちろん、家庭学習の定着を図る。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学科で学んだことが、将来の進路選択にどう活かされるかを意識させる。 ・進路指導部や担当者と協力してインターンシップを実りあるものにする。
自尊感情	定期考査や資格取得などを通じて、成功体験を積み重ねて自尊感情を高めさせる。
人権意識	日常の生活から、自己理解と他者理解の重要性を認識させ、思いやりのある生徒を一人でも多く増やしていく。
地域	生徒会の実施するボランティア活動に積極的に参加し、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画を作成し、学年団の共通理解を図る。 ・特別な支援を要する生徒については、細やかな声掛けを心掛け、職員の連携を図るとともに情報共有に努める。 ・保護者とも連絡を密にして相互理解に努める。必要があれば関係機関の協力を得て、専門的な見地から指導方針を考える。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会議等、学年団が情報を共有し、即座に対応できる体制を作る。 ・担任と副担任の協働を図り、複数の視点によりクラス運営に努める。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年団で情報の共有をおこない、幅広い視点から学年・クラスの運営に携わる。 また、各種セミナーや研究大会に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信の発行を通じて、情報発信に努める。
第2学年 将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の学びが将来にいかせられるように、6月のインターンシップや修学旅行の計画を綿密に立て、興味関心が一層深まることに重点を置く。 ・学校行事や学年行事の実施終了後に次年度以降に向けての振り返り（反省点・改善点など）作業に重点を置く。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力：学習をはじめ、資格取得を積極的に挑戦する体制作りや合格という結果を得られる生徒が増えた。 ・専門性：インターンシップでは校内体制の改善が功を奏して手厚い個別指導と実習先での貴重な体験が進路意識向上に繋がった。 ・本校の魅力：毎月の学年通信の発行や個別面談を通じて、情報発信に努めることができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権意識：他者理解に欠ける言動が見られ、思いやりの大切さを改めて説き、さらに良いクラスや学年、学校の雰囲気作りを目指したい。 ・資質能力：コロナ禍であり、各種セミナーに参加することは困難であったが、この形態が今後も続くであろうからリモートでの参加も含めて向上に努めたい。

9 第3学年

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・学年目標である「Challenge The best <u>Pride</u>」の集大成となる <u>Pride</u> を軸に「自分に誇りを持ち進路決定をする」。また、卒業後も自分に誇りを持ち社会生活を送る力を身に付ける。
第3学年基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学での英語・数学・国語など学び直しによる基礎学力の定着を図るとともに、日々の授業を大切にす。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波学「起業経営」での学びを活かすとともに、各学科の学びと商業科目の学びを結び付け、経営感覚を養う。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事でリーダーシップを発揮すると共に農業クラブ全国大会等を運営・成功させることにより自尊感情を高める。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・他者を理解し、他者を認める意識を育む。また、選挙権を有する意味を理解させ、社会生活における「権利」と「義務」について理解する。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状と課題を把握し、地域の一員であることを自覚させる。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画を作成し、学年団の共通理解を図る。また、進路決定をするうえで保護者と情報共有し、関係機関と連携を図る。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と副担任、学科、教科担当との協働を図り、複数の視点による学年運営・クラス運営を図る。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年団で情報の共有化をおこない、幅広い視点から学年（クラス）運営に携わる。また、各種セミナーや研究大会に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信の発行を通じて、情報発信に努める。また、HPやブログ等も活用する。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事や学年行事の実施終了後に次年度以降に向けての振り返り（反省点・改善点など）作業を行う。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路先をほぼ決定することができ、学年目標を達成することができた。また、朝学での学び直しの成果が出ていると感じている。 ・農業クラブ全国大会はコロナ禍の中、素晴らしい運営により自信を深められた。 ・起業経営の学びを課題研究等に活かすとともに、商業の資格取得に励むことができた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年での情報共有や協働等は、もっと連携を図ればスムーズな業務運営ができる。 ・HPやブログ等はあまり活用できなかった。 ・朝学においての取組は良かったが、さらなる基礎学力の定着が必要。

10 生産ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を通して知識や技能を身に付け、生きる力を養い地域産業人を養成する。ふるさとの自然や文化を愛し、地域の課題の解決に参画する態度を養う。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・全学習を通して読み書き計算の基礎を築き、提出物での漢字・言葉使いの確認や基礎の計算など、知識が知恵となる学習を進める。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・座学で知識を身につけ、実習で技術を身につける。その他教科、丹波学や課題研究などへ結びつき、専門性を向上させる。 ・生産体系を理解し、自分が社会で貢献することを学び社会的自立を目指す。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ブランドに触れるため、自ら家畜の飼育や作物の栽培に取り組む。 ・地域ブランドを生産しているプライドを持たせて、自尊意識とふるさと意識の醸成をはかる。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年との実習により、声掛け・指示の仕方などを学び、他者尊重の精神と協調性、責任感を育成する。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントや各種講演会などにも積極的に参加する。地域ブランドの栽培・飼育を行う中で関係機関との連携を深める。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の状態を把握し、教員で情報を共有し、生徒個々へ対応する。専攻別少人数制の展開を行う。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学科として長期目標を設定し、組織としての活動を活性化させる。 ・週一回の学科会により、業務進行状況や課題、生徒情報などを共有する。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・実習を自ら進んで行う主体性、他者とコミュニケーションを図る能力や課題解決をする能力を伸ばす。 ・校外外でイベントを企画運営することで、計画や運営の機会を増やす。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・画像動画など視覚情報を通して本校本科では何ができ、何を学び、どう成長するのかを分かりやすく伝える。 ・HPの更新頻度を増やし、イベント参加時のPRを積極的に行う。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の一次産業を担う人材育成を主軸とし、地域に還元できる地域産業人を育成するための学科体系を形成する。 ・本校本科で学んだ生徒が地域を支え、本校を支える人材育成を目指す。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報共有をはかりながら生徒個々にあった指導を行うことができた ・生徒自身が栽培や飼育している動植物に対するの責任を持ち行動する力を伸ばすことができた <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPの学科ページの更新などの情報発信。 ・コロナ禍において外部イベント参加に代わる地域参画や企画運営

11 食品ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・食品加工、食品製造、品質管理の技術を軸に栽培、販売の基礎を学習し、6次産業に対応した人材の育成。
自尊意識	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や小学生との交流を通して、自己有用感を高め、自尊心を高め、働く力を育成する。 ・各生徒の目標達成への取組を通して、自己を理解と自己の向上に努める。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・実験・実習を通して互いに協力し、思いやりを持って自他を高める態度を身に付ける。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発をし、地域とのつながりを強くする。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・科の目標について科内の共通理解を図る。また、他の科や学年との連携を深める。
教職員の資質	<ul style="list-style-type: none"> ・食品に関する講習会等に積極的に参加し、個人の能力の向上を図るだけでなく、その知識の共有に努める。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の実習などの情報をHPで発信するだけでなく、原材料栽培から加工における校内製品の良さをイベントなどでアピールする。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・6次産業化に向けた人材の育成や商品販売についてインターネット販売などを利用した販売網の確立。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域企業と協力し、商品開発することが出来た。 ・課題研究等の取り組みをSNSを使い、情報を発信できた。 ・科内での問題等の共通理解を図ることが出来た。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での生徒販売実習の実施方法を検討。 ・HACCPに沿った衛生管理ができる施設の整備。

12 生活ビジネス科

基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域から学び 学びを地域に」をもとに「農」・「食」・「福祉」を体験的に学び、地域を創る生徒を育てる。
基礎学力	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の取り組む前向きな姿勢を構築する。 ・普通教科と専門教科の学びを関連づけ、基礎的な知識を身につける。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・安心、安全を第一として、実習中の事故0や安全な生産物の提供を目指す。 ・座学と実習の学びをリンクさせて専門性の学びに深みを持たせる。 ・学びの確認のため、各種検定取得やコンクールの応募など積極的に進める。
自尊感情	<ul style="list-style-type: none"> ・学びでの成功体験をより多く構築させ、自尊意識を高める。 ・学年を横断した時間外総合実習の配当をおこない、上級学年が下級学年の指導をおこない、自尊意識を高める。
人権意識	<ul style="list-style-type: none"> ・実習などで仲間と協力して取り組むことで協調性を養う。 ・交流活動や連携授業を通して社会性・他者理解する力を養う。
地域	<ul style="list-style-type: none"> ・「学んで良かった」「入学したい」「地域に愛される」を実現できるよう学習成果の発信に努める。 ・こども園との交流活動、地域での販売活動を通じて学科のPRに努める。
特別支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学年と科の連携を深めて情報共有をおこない、個々の生徒理解を図る。 ・支援学校との連携を通じて、特別支援教育の充実を図る。
職員の協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学科の目標に対して共通認識を図り、課題解決に努める。 ・学科長会などを通じて、他科との情報交換・共有を図る。
資質能力	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会などに参加して個々の能力の向上を図る。その情報や技術を職員間で共有し、生徒に還元していく。
本校の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の取り組みなどをHPに掲載し、学びの様子を発信する。 ・生産物を通して学科の魅力を発信する。
将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・以上の取り組みより、他校や他科との差別化を図る。 ・在校生が学びに満足する、卒業生が学んでよかった、中学生が学びたいと思える学科の在り方を考える。 ・類型学習の成果と課題を検証する。
成果と課題	<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生が「入学前の理由（目的）を達成できた」と85%が回答しているので、一期生として学んで良かったと思っている結果だったと考える。 ・類型学習も現行（2年生から）でよいと92%が回答しているので類型学習の成果もあったと考える。 ・実習中の事故もなく、安心・安全な農場運営が図れた。 ・HP（ブログ）の更新が昨年以上にできた。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍により、交流活動や外部講師による授業、職員の講習会などへの参加への代替対応の工夫。 ・学年を横断した取り組みや類型学習と進路実現との乖離。